

<週報No. 2,824> 2,933 回例会

2017年11月17日(金)

■会長／八幡 一成 ■幹事／北川 和彦

◆司会＝平林明 S A A

◆ゲストビジター＝2600 地区ロータリー財団補助金小委員会委員長折井正明様

◆出席報告

本 日	69.77%	15名欠席
前回訂正	88.64%	6名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.32 川村総一郎君

◆ニコニコボックス＝●折井正明様＝懐かしい皆さんにお会いできて嬉しく存じます。今日は、ロータリー財団について講話をさせていただきます。●八幡一成君、北川和彦君＝折井正明様、本日は宜しくお祈いします。●藤森和敏君＝欠席が続きました。本日、財団担当例会で折井正明さんをお迎えして。●増澤洋太郎君＝折井正明さん、ようこそ、お元気そうで何よりです。●折井俊美君＝折井正明さん、久しぶりです。今日は宜しくお祈いします。●山本實君＝先週は出張、欠席でした。すみません。●川村総一郎君＝ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・八幡一成会長＝前々回の会長告知で、諏訪RCがホストとなった地区大会は1988年4月16、17日に諏訪文化センターを会場に行われたと紹介しました。その後、三井会員より「その大会より前にも一回やっているよ」と教えて頂きました。そこで、創立15周年の記念誌を見たところ記録が残っていませんでした。諏訪RCがホストとなって当時の360地区の地区大会が行われたのは、1971年10月1日から3日間、場所は現在の諏訪市清水町体育館(当時は勤労者スポーツセンター)でした。地区大会の2年前にガバナーから地区大会開催の要請があり、2,000人収容の勤労者スポーツセンターが1971年3月に完成することから引き受けることになったようです。

さて、話題は変わりますが、諏訪市の広報11月号を読んでいたならば、平成30年度の諏訪市奨学生募集の記事が掲載されていました。諏訪市奨学金制度については、以前に藤森郁男会員より諏訪RCの活動が元になっているとお聞きしていましたので、これを機に記録を辿ってみ

ました。

1965年に初代会長の藤森伝一さんより「青少年育成のための奨学資金を寄贈したいので善処してほしい」との申し出があり、財団法人を設立することになりました。その設立趣意書には、会員の一員より「有為の人材をより高く育て上げ、指導的社會人として大成せしめることこそ、近代日本に於ける社會奉仕の最たるものであろう」との主旨により、淨財を寄附するから育英会を設立してはどうか、との意思表示があり、全会員双手をあげて、感謝をこめて賛同し、財団法人の設立を決定し」とありました。実際には当時の税制上の課題もあり、私設財団法人でなく諏訪市奨学基金を作ることとなり、その基金に寄付をして頂き、その基金を元に、1966年「諏訪市奨学金制度」が創立されました。制度運用にあたっては審議委員会の委員として諏訪クラブ会員が参加しています。

折しも翌年1967年は諏訪RCの創立10周年でしたので、その記念事業の一つとなっています。諏訪市広報によれば、諏訪市奨学金制度はより充実した奨学金制度にするために、原資にふるさと寄附金を活用し、また、地域密着型の奨学金制度として、地元に戻って活躍をしたいという思いを持って学んでいる学生に対しては一定の条件の下、償還額について減免措置を実施している、とのことでした。先日、諏訪市教育委員会より、次期の諏訪市奨学生審議委員の選出依頼がありました。このような経緯で創立された奨学金制度ですので、審議委員だけでなく機会があれば支援をしていったらどうかと思います。

◆幹事報告・北川和彦幹事＝①本日は、地区財団補助金小委員会委員長の折井正明様の卓話です。宜しくお祈いします。②各テーブルにお菓子が配られています。東京海上日動火災保険の大岩慎治元会員から届いたものです。③先週例会終了後に理事会があり、クラブ細則検討委員会委員に副幹事の加藤明博会員を追加選任しました。また、諏訪市奨学生審議委員会の委員の任期満了に伴う後任委員の選任について、市の教育委員会から依頼がありましたが、会長幹事に一任を頂いたので、これから適任者をお願いすることにします。④ロータリー財団の補助金を頂いて、諏訪市教育委員会にワイヤレスメガホンと書籍を贈呈しましたが、ワイヤレスメガホンを購入したとの連絡がありました。お披露目は12月16日(土)のことです。⑤次週11月24日(金)は、午後7時より、アクトとの合同夜間例会です。昼間の例会はありません。

◆クラブフォーラム 2600 地区ロータリー財団補助金小委員会委員長折井正明様＝まずもって、諏訪RC創立 60周年につきお祝い申し上げます。



本日は「ロータリー財団（以下「R財団」）を理解しましょう」というテーマでお話します。まず、R財団の使命ですが、「ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする」という高邁な目標を実現するために、ロータリーの様々な奉仕活動を支援しています。ポリオ撲滅活動にも多額の資金を支援しています。2017年は、R財団 100周年という記念すべき年で、世界中の全てのロータリアンが、何らかの活動や行事を行うことが期待されています。

R財団の歴史ですが、1917年の米国アトランタ大会で、当時のアーチ・クランプ会長が「世界でよいことをする」ための基金を作るというビジョンを発表したことが端緒で、同氏は「財団の父」と呼ばれています。「世界でよいことをする」という言葉は財団の標語となりました。しかし、彼のビジョンが完全に実現されるには、長い年月を要しました。1917年に最初に行われた 26 ドル 50 セントの寄付に始まり、創設後 30 年間で財団が受領した寄付は計 200 万ドル程でした。しかし、今や資産 10 億ドルの世界最大規模の財団に成長し、何百万人の生活に変化をもたらしています。

主なプログラムですが、1947年に高等教育のための「R財団フェロシップ」を開始しました。奨学金の受領条件や名称は、変更されてきましたが、将来有望な学生に海外留学の機会を与えるというコンセプトは不変です。奨学生から多くの著名人が輩出されており、日本人では、山崎直子氏（宇宙飛行士）、緒方貞子氏（元国連難民高等弁務官）、中満泉氏（日本人女性初の国連事務次長）がおられます。ポリオ撲滅を目指す戦いは、国際

ロータリーのプログラムの中で、特に重要な位置を占めています。元は東京麹町RCが中心となって提唱されたものです。グローバル補助金は、6つの重点分野に活用されています。2009年に「未来の夢計画」と呼ばれる新しい補助金モデルが考案され、2013年に全世界で導入されました。その中で地区補助金も生まれました。

寄付の窓口となる主な基金には、目的が限定された「ポリオプラス基金」と、「年次基金」「恒久基金」があります。年次基金は、「シェアシステム」という仕組みを通じ、3年間運用された上で、半分は「地区財団活動資金(DDF)」に配分され、地区補助金やグローバル補助金として様々な活動に活用されています。もう半分は「国際財団活動資金(WF)」として世界の最優先課題への取組に活用されています。

2600地区では、「UPDATE MY CLUB」との地区標語の下、一人当たり 190 ドルの寄付という目標の達成が求められていますが、一方で、行事に多くの予算をかけるよりも、財団活動への理解を深めることを通じて、より多くの寄付が集まるようにすべきと考え、財団の活動を紹介しています。尚、プレゼン資料は、地区HPにも掲載されています。100周年を念頭に、私たちに期待されることですが、補助金事業については、単年度に留まらない継続的な努力が、大きな成功に繋がります。R財団の役割は、各クラブの補助金プロジェクトへのお手伝いですが、例えば、各クラブでの継続的な補助金実行委員会の設置や、複数クラブでの共同事業の実施を提案しています。財団の寄付者には「ポール・ハリス・フェロー」等といった認証制度があり、既に世界で 150 万人が認証を受けています。私たち一人ひとりができる大切なことは、R財団の歴史を振り返りつつ、「世界でよいことをする」ロータリアンの仲間である証として、寄付をする気持ちを持つということだと思います。

◆今後の例会日程

11月24日	金	合同例会(青少年奉仕委員会)ローターアクト合同例会
12月1日	金	クラブフォーラム(伴在賢時郎会員)一年間を振り返って
12月8日	金	クラブ協議会(会長・会長エレクト)年次総会
12月15日	金	休日
12月22日	金	家族例会(忘年例会)

